

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

国語 白岡市立南中学校

実施日 指導案検討 令和7年10月10日 (金)
授業研究会 令和7年11月4日 (火)
訪問者 指導主事 赤塚 みゆき

指導案検討会

●単元名

いにしへの心にふれる一昔の名作は今
もなお、名作といえるのかー
蓬萊の玉の枝ー「竹取物語」ーから
(第1学年)

●本時の目標

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

《思考力、判断力、表現力等》

《授業者の思い・意図》

・古典に苦手意識をもっている生徒にも、作品の魅力を捉えさせ、読み進めさせたい！

➡教科書に掲載されている文章だけではなく、5人の貴公子それぞれの物語を通して、現代との共通点や相違点などから「竹取物語」は今でも名作と言えるかということについて考えさせる。

授業デザイン改善のPOINT

■ 目標を達成するための言語活動

言語活動ありきではなく、
目標が達成できる言語活動を設定すること

■ 言語活動の特徴や特性の確認

取り組ませる言語活動にはどのような特徴や
特性があるか、教師が認識すること

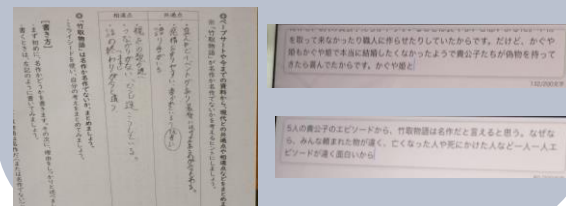
■ 「考えの形成」をすること

・考えを形成するための「正確な理解」について
・どんな考えをもたせるのか明確にすること

授業研究会

●生徒の変容や今後の課題

- ◎「竹取物語」と現代との共通点や相違点を考えるを通して、古典への親しみを感じ、作品を「おもしろい」と考える生徒が多かった。
- ◎5人の貴公子を分担し、それぞれの内容についてペープサートを用いてグループで伝え合った。そのため、自分の発表に責任をもって取り組んでいた。
- ▲「古典に親しむ」活動と、「考えを深める」活動を分けて行っていれば、より生徒の考えを深められる授業展開になっていた。



■ 参会者の声

・国語の専門ではないうえに、小学校の低・中学年の担任をすることが多いので不安でしたが、疑問を聞いていただき、考え方が少しわかりました。とても勉強になりました。(指導案検討会：小学校教諭)

・古典の授業を見る機会もなかなかなく、他の先生方と話をすることが少ないので、大変貴重な機会だと感じています。今後の自分の授業改善として何をしていけばよいか、明確になりました。

(授業研究会：中学校教諭)

■ 授業者の声

- ・(指導案検討) 目的に合った言語活動になっているか、ということについて、特にたくさんの御意見や御提案をいただきました。また、考えをもたせるための観点を示すことについても御意見があり、授業に取り入れることができました。
- ・(授業研究会) ペープサートについては、「古典に親しむ」という点では適していたと思いますが、「考えの形成」には適していないことが分かりました。中学校に入って初めての古典であること、できるだけ興味をもたせたかったこと等から、実態を考慮してこの手段をとりました。
- ・(今後に向けて) 様々な方に御指導いただき、貴重な経験になりました。また、多くの方に支えていただいたので、この経験を今後に生かしていきたいです。